

浪江からの手紙



滋賀の皆さん、「原発」は絶対に安全ではありません

福島県浪江町赤宇木白追 柴田明範

あの東日本大震災と原発事故から3年になろうとしています。私達の生活は何も復興には向かっていません。2〜3日で帰れると思いついて避難してから3年がプレハブの仮設住宅で過ぎようとしています。



2014/02/27 15:34

柴田明範さん(福島県二本松市の仮設住宅前で)

プレハブでの生活は、夏はもの凄く暑く、床板が一枚なので冬になれば底冷えがして凄く寒いです。2年の耐久性しか有りませんが、もう3年。復興住宅は一向に進まず、何時になれば出られるのか分かりません。アリアが自由に部屋に入ってきますし、ナメクジも這い回る住宅に何時まで私達は住まなければいけないのでしょうか。

何か。何も悪くない私達に、国も東電も全く誠意が感じられません。

我が家も土地も有るのに帰れない辛さは、実際にならないうちで分らない事でしょうね。事実、避難先でも「賠償金が入るのでしょ。良いわね」と心無い



2014/01/27 10:21

自宅への道は今もバリケードで封鎖(浪江町)

言葉を言われます。暮らして返して欲しいのが私達の願いなのに、お金が入るのが良いように言われます。悔しくて情けなくて涙が溢れます。

仕事も趣味も友人も家も全て原発事故に奪われました。

しかし今、東電は賠償を打ち切る事しか考えていません。長年勤めた会社で働けなくなり、以前のような会社に入ることも給料も期待できないのに、補償もしないつもりなのです。国策、民営で行ってきた原子力発電事業なので、我が家に帰れるまで責任を持つのが事故の原因企業の責任ではないでしょうか。

原発は世界中から無きなければなりません。福島は二度と起こしてはいけません。バリケードで閉ざされた私の故郷。この日本に人が住めない場所が有るといふ事を忘れないで下さい。

滋賀のみなさん、「原発」は絶対に安全ではありません。今も冷却するのがやっこの状況なので。事故から何も解決してはいけません。今も放射能は漏れ続けていますし、汚染水は海に流れているのです。